



第五〇回消防救助技術秋田県大会
(秋田県消防長会主催) が六月三十日及び七月六日の両日開催され、出場隊員は日頃鍛えた救助技術を競いました。

消防救助技術秋田県大会
秋田県消防長会



題 字 初代会長 松野 盛吉
発行人 〒010-0951 秋田市山王四丁目1番2号 秋田地方総合庁舎内 秋田県消防協会 会長 高橋 正尚 電話 018-867-7320 FAX 018-863-5910 http://www.shoubou-akita.or.jp E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷 〒010-0951 秋田市山王7丁目5-29 株式会社 松原印刷社 電話 018-862-8760 http://www.matsubairainsatsu.co.jp



全国大会・東北指導会出場隊

【全国大会】 ◇陸上の部

種 目 名	消防本部名	隊員 (チーム) 名
ロープブリッジ渡過	能代山本広域消防本部	藤 田 拓 真
はしご登はん	大曲仙北広域消防本部	齊 藤 佳 祐
ほふく救出	大曲仙北広域消防本部	齊 藤 健 太 チーム
ロープ応用登はん	横手市消防本部	高 橋 洋 平 チーム

【東北指導会】 ◇陸上の部

種 目 名	消防本部名	チ ャ ム 名
引 揚 救 助	秋 田 市 消 防 本 部	越 川 俊 介 チーム
	北 秋 田 市 消 防 本 部	神 成 雄 介 チーム
	鹿 角 広 域 消 防 本 部	小 舘 廉 史 チーム
	能 代 山 本 広 域 消 防 本 部	中 村 元 気 チーム
ロープブリッジ救出	大 曲 仙 北 広 域 消 防 本 部	大 石 海 斗 チーム
	横 手 市 消 防 本 部	粟 津 健 汰 チーム
	男 鹿 地 区 消 防 本 部	大 塚 直 道 チーム
	大 曲 仙 北 広 域 消 防 本 部	高 橋 明 士 チーム
障 害 突 破	秋 田 市 消 防 本 部	佐 藤 隆 介 チーム
	横 手 市 消 防 本 部	小 田 嶋 理 嗣 チーム

◇水上の部

種 目 名	消防本部名	隊員 (チーム) 名
複 合 検 索	鹿 角 広 域 消 防 本 部	大 森 依 志 樹
	鹿 角 広 域 消 防 本 部	木 村 匠
	五 城 目 町 消 防 本 部	舘 岡 拓 海
	秋 田 市 消 防 本 部	鎌 田 晃 遥
	五 城 目 町 消 防 本 部	菊 地 航 平
基 本 泳 法	能 代 山 本 広 域 消 防 本 部	伊 藤 雅 道
	横 手 市 消 防 本 部	小 松 谷 岳 瑠
	秋 田 市 消 防 本 部	二 瓶 慎 吾
	北 秋 田 市 消 防 本 部	石 川 功 太
溺 者 搬 送 助	北 秋 田 市 消 防 本 部	木 村 亮 太 チーム
人 命 救 助	男 鹿 地 区 消 防 本 部	田 中 謙 也 チーム
溺 者 救 助	能 代 山 本 広 域 消 防 本 部	茂 呂 成 倫 チーム
水 中 検 索	に か ほ 市 消 防 本 部	須 田 翔 馬 チーム
	湯 沢 雄 勝 広 域 消 防 本 部	佐 藤 匡 人 チーム

六月三十日秋田県立総合プール(秋田市向浜)で開催された「水上の部」には一〇消防本部から三一人が、七月六日秋田県消防学校で開催された「陸上の部」には、一三消防本部から一七九人が出場しました。「陸上の部」開会式で、横手市消防本部土田拓実消防副士長が「日ごろ

都立川市で開催されます。競技の結果、全国大会・東北指導会への出場隊は、別紙のとおり決定しました。東北指導会は七月に宮城県利府町(水上の部)と新潟市(陸上の部)で、全国大会は八月に東京都立川市で開催されます。

の訓練の成果を遺憾なく発揮し、感謝の気持ちを忘れず、安全・確実・迅速に全力を尽くし、ここ秋田県消防学校を今日一日、全国で最もアツい場所にすることを誓います。」と宣誓しました。



第76期
初任教

実務研修を
終えて

秋田県消防学校



和賀 莞汰
(秋田市消防本部)

今回の実務研修は、前回の反省を踏まえて臨むことができた。前は消極的になって行動が受け身になったり声が小さかったりと、当たり前前の方ができていなかった。しかし、今回は積極的に行動し、あいさつや呼唱をはつきりできてよかったと感じた。

特に感じたことは、準備の大切さである。ホース延長訓練では、ホースバックの収納を丁寧に行わないと、ホースがうまく伸びなかった。また、出勤時に防火衣を着装し易い状態に設置しておいたことで、迅速な出勤ができた。その他にも車両や機器の点検など、自分が使うものの準備を特に大事にしたいと思う。

三ヶ月が過ぎ、多くのことを学んだつもりだったが、技術、教養とまだまだ足りない部分が多くあることを実感した。自分が署に戻ってやるべきこと、役割が分かったから、残り三ヶ月で力をつけ成長したい。



菊地 逸平
(大館市消防本部)

今回の実務研修は、宿泊を伴う初めての研修であり、色々な経験をすることができた。

朝の大交代から車両点検、出勤訓練までの流れや、通信指令室を見学することができた。119番通報が何度もあったが、通報音が鳴った時の緊張感を感じることができた。

所属に戻ってからの一日の流れや、新人としてやるべき仕事等をある程度把握することができ、消防学校を卒業した後の自分の仕事をイメージすることができた。

しかし、実務研修全体を通して自分の技術等が最低限のレベルにも達していないことを痛感し、このままで所属に戻っても迷惑をかけるだけという危機感も感じた。

消防学校で自分で練習できるものは努力を継続し、放水や空気呼吸器等の訓練でしか取り扱うことのできないものは、一回の訓練をもっと大切にしたい。

そして、今回感じた足りない部分を考えながら、所属に戻った時に迷惑をかけないレベルまで扱えるように、これからの生活に生かしていきたいと強く感じた。



工藤 宇宙
(由利本荘市消防本部)

六月三十日から七月一日まで宿泊研修を行いました。

午前は、消火活動に欠かせない一号車の概要を教わりました。

午後は、ホーススカーを使用したホース延長、放水訓練を実施、夜間は消防団の小型ポンプ操作の見学、指令室での通信勤務と多忙な一日でした。

午後の訓練で、実際に現場活動している先輩方と訓練し、自分に不足する部分が沢山あることを知りました。

まだまだ未熟な私ですが、立派な消防士になれるよう残りの学校生活で訓練に励み、今より成長した自分で所属に戻りたいと思います。

一号車の概要や通信業務も欠かせない大切な仕事です。どちらも所属に戻った際必ず行うので、教わったことを細部に至るまで復習し、いつでも実施できるよう日々意識していきたいと思います。

次の実務研修は八月に実施することなので、今よりもっと体力をつけ、これから習う訓練や座学でも、日々しっかりと意識しながら全力で挑むようにしていこうと思います。



柴田 健翔
(横手市消防本部)

今回の実務研修を終えて、消防職員は常に緊張感を持って仕事をしなければならぬと強く実感した。

特に、入浴時、仮眠時に実感した。何をしている時であっても指令があった場合、即時に準備をして出動しなければならぬ。業務中のプレッシャーが続ぎ、かなり疲れてしまった。この緊張感やプレッシャーが続く中で働く先輩をとて尊敬する。

これからの消防学校の生活の中では、オンオフを意識して過ごしていきたい。一日中緊張していても、現場で十分な活動ができなくなってしまうからだ。

先輩方は、リラックスしている時、訓練やシミュレーションを行っている時、しっかりと気持ちの切り替えを行っていた。

自分の学校での行動を今振り返ってみると、オンオフができていなかったように思える。点呼や訓練中、休憩の際、移動が遅かったりと無駄が多かった。

残すところあと二ヶ月ではあるが、初任教員の生活にメリハリを持って有意義に過ごしたい。



鈴木 怜奈
(鹿角広域行政
組合消防本部)

今回の実務研修を終えて、消防学校を卒業して所属に戻っても学ぶことが沢山あると思えました。事務仕事の種類の多さにも驚きました。

また、消防車輛に積んでいる資機材の置き場所や訓練で使う道具の置き場所など、わからないことが多く先輩に聞いてばかりでした。わからないと言つて良いのは最初だけだと言われたので、早く覚えてもつと積極的に動けるようになります。

救助訓練では、全隊員の息が揃つていてかつ速くて圧倒されました。結索の速さや呼称など、出来るだけでなく一人だけ遅れをとらないためにも、迅速に動きかつ自分の動きを伝える呼称が大切だと思いました。

初めての宿泊では、夜になり外も静かになったと思いましたが、いつ出勤になるのかわからず安心はできませんでした。仮眠中も何回も目が覚め、翌日も疲れが残っていると感じました。

今回は一日だけの宿泊研修でしたが、沢山学ぶことができました。自分の中で整理して、消防学校生活でも活かしていきたいです。



奈良 悠平
(湖東地区行政一部
事務組合消防本部)

実務研修を終えて、消防職員の日を知ることができた。

体力錬成では入校前より強くなっていることが分かった。しかし、仕事に必要な力をもつと強化する必要があると感じた。そのために、毎日の体力錬成での追い込みや体調管理が必要なので気を引き締めて生活していきたいと思う。

基本結索では、ロープの長さや確認呼唱に意識して取り組むことができた。結索をスムーズに丁寧に行うことができたので良かった。

先輩の結索では、スムーズに行うだけでなく、スピードも速いと感じたので、自分も少しずつ速くできるようにしていきたい。

初めての実務研修を通して、自身の良い所を知ることができたので良い研修になった。学ぶことが多かったのも、学校に戻ってから、それを生かして訓練や体力錬成の時に意識して行いたい。

そして私が目指す、人に応援してもらえよう消防職員に近づけるように毎日努力していきたい。



麦田 慧那
(大曲仙北広域市町
村圏組合消防本部)

初めての宿泊研修で二四時間、指令の心構えをしていた。

午前中の器具結索の訓練では、火事を想定して上からロープを下ろし結索時間を測定しながら行った。実際の火災現場では速さを求められるため、コツを教わりながら訓練した。午後は、救急と予防業務だった。

バックボード、スクープストレッチャーの搬送要領を教わった。どの機材をいつ使用するかの判断、そして使用方法を理解していなければ傷病者に適切な対応ができないため、知識を高め反復訓練していきたい。

予防業務は、一連の業務内容の説明を受けた。火災、救助、救急だけでなく消防設備など予防に関することも仕事の一つであり、予防を適切に行うことで市民の安全を守ることができると思った。

今回の宿泊研修で一日の流れをすべて理解することは難しいが、消防吏員として少し成長できたと感じている。

あと二ヶ月半で消防学校が終わる。勉強と訓練を頑張る、市民に貢献できる消防吏員になりたい。



**女性消防団ネットワーク会議
開催準備委員会**

六月一五日(火)、女性消防団ネットワーク会議第一回開催準備委員会を開催しました。

今年度は九名の委員のうち六名が交代し、リーダーに佐藤久子さん(大仙市消防団)、サブリーダーに益子和加子さん(横手市消防団)が選ばれました。

今年度の会議は、講演と参加者同士のディスカッションを行うこととし、テーマ等については、一〇月一四日の第二回準備委員会で協議することになりました。

- ・ 開催日 令和四年一二月三日(土)
- ・ 開催場所 イヤタカ(秋田市中通)



**第一回若手消防団員
活性化推進会議**

六月二四日(金)、第一回若手消防団員活性化推進会議を開催しました。

今年度は一二名の委員全員が交代し、リーダーに高橋充秀さん(秋田市消防団)、サブリーダーに木村和哉さん(鹿角市消防団)が選ばれました。

今年度の会議は、前チームの活動報告とディスカッションを行うこととしました。

- ・ 開催日 令和五年二月四日(土)
- ・ 開催場所 イヤタカ(秋田市中通)
- ・ 対象者 各消防団から概ね四〇歳までの団員一名



令和 4 年度消防団員数の概要

令和 4 年 4 月 1 日現在の消防団員数 (速報値) の概要は次のとおりです。(秋田県総合防災課調査)

1. 消防団員数は 15,131 人

消防団員数は減少傾向が続いており、前年同期比342人減の15,131人となりました。条例定数充足率は82.7%、被雇用者率(サラリーマン化率)は73.2%となっています。(単位:人、%)

	H29. 4. 1	H30. 4. 1	H31. 4. 1	R 2. 4. 1	R 3. 4. 1	R 4. 4. 1
消防団員数	16,900	16,653	16,275	15,894	15,473	15,131
前年同期比増減数	△ 277	△ 247	△ 379	△ 381	△ 421	△ 342
条例定数充足率	88.9	88.3	87.7	85.9	84.8	84.5

2. 女性消防団員は 38人増の467人

女性消防団員は年々増加しており、前年同期比38人増の467人となりました。(単位:人、団)

	H29. 4. 1	H30. 4. 1	H31. 4. 1	R 2. 4. 1	R 3. 4. 1	R 4. 4. 1
女性消防団員数	362	384	390	415	429	467
前年同期比増減数	7	22	6	25	14	38
女性団員採用消防団数	22	25	19	21	20	20

3. 機能別団員は 20消防団、1,278人

機能別団員制度が県内に導入されたのは平成19年度からですが、年々増加しており、前年同期比115人増の1,278人となりました。(単位:人、団)

	H29. 4. 1	H30. 4. 1	H31. 4. 1	R 2. 4. 1	R 3. 4. 1	R 4. 4. 1
機能別団員数	594	716	817	1,045	1,163	1,278
前年同期比増減数	82	122	101	228	118	115
機能別団員制度導入消防団数	9	12	14	18	19	20

令和4年度消防団員数(令和4年4月1日現在)

(単位:人、%)

地域名	消防団名	条例 定数	実 団 員 数				定 数 充足率	女 性 団員率	前年同期比較	
			総数	男性	女性	うち 機能別 団員数			団員数	増減数
鹿 角	鹿角市	892	761	730	31	74	85.3	4.1	778	△ 17
	小坂町	150	116	114	2	0	77.3	1.7	119	△ 3
	地域計	1,042	877	844	33	74	84.2	3.8	897	△ 20
北秋田	大館市	980	905	819	86	50	92.3	9.5	939	△ 34
	北秋田市	670	608	584	24	27	90.7	3.9	638	△ 30
	上小阿仁村	100	78	78	0	4	78.0	0.0	74	4
	地域計	1,750	1,591	1,481	110	81	90.9	6.9	1,651	△ 60
山 本	能代市	850	653	596	57	135	76.8	8.7	653	0
	藤里町	125	103	103	0	0	82.4	0.0	106	△ 3
	三種町	507	409	398	11	67	80.7	2.7	422	△ 13
	八峰町	330	250	244	6	30	75.8	2.4	255	△ 5
	地域計	1,812	1,415	1,341	74	232	78.1	5.2	1,436	△ 21
南秋田	男鹿市	820	767	750	17	108	93.5	2.2	762	5
	潟上市	508	434	419	15	12	85.4	3.5	443	△ 9
	五城目町	205	167	160	7	41	81.5	4.2	172	△ 5
	八郎潟町	75	64	64	0	0	85.3	0.0	65	△ 1
	井川町	145	110	106	4	4	75.9	3.6	115	△ 5
	大潟村	67	56	56	0	12	83.6	0.0	57	△ 1
	地域計	1,820	1,598	1,555	43	177	87.8	2.7	1,614	△ 16
秋 田	秋田市	2,100	1,609	1,578	31	127	76.6	1.9	1,665	△ 56
由 利	由利本荘市	1,802	1,460	1,445	15	191	81.0	1.0	1,500	△ 40
	にかほ市	540	446	433	13	54	82.6	2.9	472	△ 26
	地域計	2,342	1,906	1,878	28	245	81.4	1.5	1,972	△ 66
仙 北	大仙市	1,375	1,085	1,020	65	53	78.9	6.0	1,051	34
	仙北市	630	492	475	17	18	78.1	3.5	509	△ 17
	美郷町	405	331	330	1	22	81.7	0.3	343	△ 12
	地域計	2,410	1,908	1,825	83	93	79.2	4.4	1,903	5
横 手	横手市	2,400	2,190	2,162	28	179	91.3	1.3	2,242	△ 52
雄 勝	湯沢市	1,555	1,485	1,458	27	70	95.5	1.8	1,527	△ 42
	羽後町	467	393	393	0	0	84.2	0.0	407	△ 14
	東成瀬村	200	159	149	10	0	79.5	6.3	159	0
	地域計	2,222	2,037	2,000	37	70	91.7	1.8	2,093	△ 56
計	25消防団	17,898	15,131	14,664	467	1,278	84.5	3.1	15,473	△ 342

消防団員意見発表

秋田県消防大会の中止に伴い、第一六回消防団員意見発表会も中止になったので、発表予定だった意見の概要を紹介します。

鹿角市消防団員としての誇り

鹿角市消防団員 高杉 大世

幼い頃、鮮やかな真っ赤なボディーの消防自動車や銀色の防火服を身に着けて火災現場などで活躍する消防士が格好よく見え、幼心に憧れを抱くようになりました。

月日が流れ、小さい頃の憧れを現実にするべく、地元の消防職員採用試験を受験しましたが、狭き門を通過することは難しく別の道を歩むことになりました。

社会人になってからも思いは絶えることは無く、友達から消防団の存在や活動内容を教えてもらい関心を持ったものの、地元を離れて就職したため諦めていましたが、運良く転勤で地元に戻ることができ、自ら進んで入団しました。

私が所属する分団は、消防操法に力を入れており、先輩たちの規律訓練や操法訓練を見るうち、自分もいつか選手として活躍したいと思うようになりまし

た。幸い多くの出場機会に恵まれ、小型ポンプ操法及び自動車ポンプ操法の一番員を務め、夏場の訓練を団員一丸となってやり抜き、支部大会、全県大会でも優勝を経験できたことは大きな励みになりました。操法の基本動作は、実際の火災出動でも大いに役立っていると確信しています。

一七年間の消防団生活では、消防団としての厳しさも経験しました。

数年前に妻の実家が延焼火災をうけ、全焼になったことがありました。財産や思い出、住むところを瞬間で失う火の怖さのほか、義弟からのなかなか行われない消火活動に対しての厳しい批判は、今でも忘れることができません。この件を通じて、消防団に期待される役割や初期消火活動の重要性を再認識しました。

私は、消防団員として現場活動に直結する操法訓練のほか、有事に備え定期的な機械器具の点検、火災予防啓発を愚直に行うことが地域への恩返しと考えます。

近年では、集中豪雨による風水害などに対しての出動が増えていますが、消防団活動が多種多様となっている今だからこそ、私はこれからも市民を守るため、様々な災害に対応できるように訓練を重ね、鹿角市消防団員として活動していきます。

消防団員活動

上小阿仁村消防分団長 高田 恒

私は高校卒業後、就職のため上京しましたが、都会の生活に馴染めず二年ほどで地元に戻ってきました。

地元で働き始めた頃、叔父から「おめ消防団さ入らねばねど」と言われ、「地域のために頑張ろう」と思い、昭和六一年に入団しました。

入団して三七年になりましたが、今までに火災や行方不明者の捜索、水害の活動などがありました。その中で印象に残っていることをお話ししたいと思います。

私が入団して間もない頃のことです。当時私は家の近所で内装工事の仕事をしていました。昼近くになった頃です。村の防災無線で「ただ今、沖田面地区で火災が発生し消防車が出動しました」と放送がありました。すぐに火災を知らせるサイレンが鳴り、消防車のサイレンの音も聞こえてきました。

「沖田面ってここだよな」と思い、現場の外に出て見回しましたが煙は見えません。「どこだー」すぐに車に乗り込み、煙が出ているところを探しに出ました。「あっ見えだ」そちらの方向へ向かいましたが、どうやら自宅の方向から煙が上がっていたの

です。「おいおい、まさかだべ」もう心臓はバクバクでした。幸い自宅ではなかったのですが、家の裏の小屋が放火され、そちらの住宅と小屋が全焼し、私の家は部分焼ということになったかと鎮火しました。

あの時、物凄い炎と煙を間近に見て火災はとて怖いなものだと思えました。そして火災に立ち向かい、的確な消火作業を進める消防署員、先輩団員を見て「私も早くこんな活動ができるように」と訓練をしよう」と思いました。これが私の初めての火災出動での教訓でした。

それと今、全国的に消防団員不足が深刻化しております。村の消防団でも退団者はいても、入団者はいない状況です。

私は分団長になり、数回消防学校で行われている消防団幹部研修会に参加しましたが、秋田県内の各消防団でも団員不足は深刻な悩みようです。その中で、どうしたら団員を増やせるか話し合いましたが、なかなかいい案が出ません。

しかし、このままでは地域住民を守ることはできないので、行政、消防団と力を合わせて団員を確保し、地域の皆さんの安全を守るといった役割を果たしていきたいと思

防災マップの共有で地域を守る

藤里町消防団 夏井 翔太

皆さんはお住まいの市町村防災マップを見たことはありますか？

防災マップは、私たち消防団員にとって、災害時の不安を感じさせる一方で地域の人を守る教科書のような存在です。同時に消防関係者の連携を強固にし、災害に強い町づくりに導くツールとして更に有効活用できるものと考えます。

私の地区は0.5〜3mの河川浸水想定区域です。また、近くの高台はため池浸水想定範囲に指定され、殆ど逃げ場のない立地です。

実際に被災した時のことを考えてみました。浸水前に避難は完了しているか。0.5mの浸水では歩くのも難しいかもしれない。地区の殆どが高齢者で早期に避難してしないと死傷者が出るかもしれない。片麻痺の祖母は大丈夫か。家のローンがまだ三十年近くある。避難先で必要なものが整っていないなど、少し考えるだけでも様々な懸念を抱きます。

当町の人口2,950人の49%は65歳以上で、46.3%が中心部の藤琴地区に集中しています。

行政機関、学校、福祉施設などがあり大部分が土石流警戒区域で、浸水で町の半分が被災し機能不全に陥る可能性を感じました。役場や消防

署が水没した場合、関係者間で連絡が取れず、指示系統が機能しなくなるかもしれません。

一刻一刻と状況が悪化する中で逃げ遅れた人を誘導するルートが本当に安全なのかなど、現場では様々なケースで葛藤が生まれると思います。子供たちが取り残され危険な状態にあるとしたら、保護者もパニックになるはず。団員自身も被災者のままだと、家族を心配しながら十分に活動できないかもしれません。

このように防災マップを見て、あれこれ不安に思うのは、私がまだ誰とも共有できていないからです。こうした不安を解消できれば総合力の高い防災組織にできると思います。

まずは家族と何を準備しておくべきか、様々想定し共有しましょう。家族の備えが万全であれば、団員の活動に集中できるはずです。

分団内でも共有し、不安に思うことを相談することが大切です。消防署や市町村と分団で防災マップを活用した勉強会を活発に行い、連携が更に強固になれば、百年に一度の大洪水でも、より多くの人々を守ることにできると私は信じています。

団員一人一人の防災意識の向上が災害に強い町にしていく大きな力であることを今一度認識し、人々の命を守る私たちの活動に誇りを持って共に努めていきたいと思います。

周防前副会長に感謝状を贈呈しました

令和三年五月に退任された前副会長の周防彦宗氏に、協会から感謝状を贈呈しました。

秋田県消防大会で行う予定でしたが大会が中止されたため、七月二九日に由利本荘市消防本部において高橋会長が贈呈しました。

周防氏は、平成二五年に理事就任、平成三十年に副会長就任と役員を通算八年務められ、消防団員の活動環境の向上や協会の経営基盤強化に尽力されました。

周防さん、誠にありがとうございました。



トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店

総合防災設備センター

株式会社 高義商会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
消防報知器各種
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183)(73)2588

株式会社 夕力ギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880
FAX (0182)(32)0839

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | 消防設備保守点検
トーハツポンプ | キンパイホース
各種消防機械器具 | 各種消火器

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

支部情報アラカルト

由利本荘にかほ支部では、五月から七月にかけて三年ぶりととなる各種講習会と消防訓練大会を開催しました。

新規団員講習は、三年分の新規団員を核とした未受講の団員を対象とし、両市で約九十名が受講しました。機械器具の取扱いや礼式・規律訓練など、団幹部及び署員の指導の下、消防団員としての基礎的な知識や技能の教育がなされました。

各市訓練大会においては、一般観客を制限したほか、午前と午後



部制にするなど、コロナ禍でも団員が安心して参加できる開催方法を検討し実施しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、規模や内容の見直し、感染症対策など、様々な検討事項がある中での開催となりましたが、講習に励み、大会では団員が一丸となり日ごろの訓練の成果を存分に発揮する姿に、改めて地域防災の中核を担う消防団としての高い意識を感じました。

コロナ禍で様々な制限がある中ではありますが、今後も様々な工夫をしながら、団員の技能、知識、士気向上のため、出来る限りの事業実施に努めていきたいと考えております。



〔情報提供〕由利本荘にかほ支部

お詫び

6月号に掲載した「一般財団法人秋田県消防協会 理事・監事・評議員」の評議員の氏名に誤りがありました。「菊地直人 八峰町消防団」は、正しくは「笹村清幸 八峰町消防団」でした。笹村氏及び関係者の皆様に、大変ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。



火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	令和 4 年		令和 3 年			同期比較	
	7 月	累計	7 月	累計	年計	7 月	累計
建 物	10	102	16	121	186	- 6	-19
林 野	0	28	4	20	24	- 4	8
車 輛	2	19	0	20	32	2	- 1
その他	1	76	13	58	78	-12	18
合 計	13	225	33	219	320	-20	6
死者数	3	19	4	19	24	- 1	0
負傷者数	0	28	4	39	49	- 4	-11

モリタ消防ポンプ
桜ホース・ソフト吸管
各種消火器

シバウラポンプ
消防被服一式
消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル3F FAX 018 (824) 3651